

令和3年 9月の園だより

【あそびの中で育つもの】

8月に入り、再び新型コロナウイルスの感染が急拡大し、緊急事態宣言が発令されました。ワクチン接種がすすみつつある中での感染拡大ということで、先が見えず不安を感じると同時に、今回流行しているデルタ株は、子どもにも感染し重症化することが報告され、様々な情報が入る中で緊張の毎日が続いています。園では、これまで通り感染防止対策をしっかりと行いながら、感染拡大が急増している期間は、濃厚接触者になることを少しでも避けられるよう、異年齢での交わりをできる限り最小限にして、感染拡大防止に努めてまいりたいと思います。とはいえ、園生活は友だちや保育者と関わり触れ合う中で過ごしており、密でなければ保育はできません。特に乳幼児期は、周りの大人や子ども同士の関わりの中で、成長し人格を育む大切な時です。子どもたちが、豊かな人生を送るためには、乳幼児期の人との関わりが大きく影響します。コロナ禍だから何もしないのではなく、引き続き今できることを工夫しながら楽しい保育になるようすすめていきたいと思っています。また、職員の体調管理にも細心の注意を払ってまいります。保護者の皆さまには、いつもご協力のお願いをばかりで申し訳ありませんが、ご家庭でもお子さんはもちろん、ご家族の体調には十分に気をつけていただき、みんなの命をみんなで守っていきましょう。

さてこの夏、子どもたちは水に触れ冷たさや気持ち良さなど、様々な感触を身体全体で感じて遊んできました。中でも2歳児の子どもたちは、ペットボトルに水が入る時ぷくぷくと泡が出ることに気づいたり、小さな容器に水を入れて移し替えると上手く水が入ることや、たらいの水が少なくなると、たらいを傾けて水を集めたりすることなど、子どもなりに

にどうしたらいいかを、考えながら遊んでいる姿がありました。また、キャップを使って2リットルのペットボトルに時間をかけて最後まで入れきったり、ペットボトルが揺らいで上手くできない時には「持っ」と助けを求めたりなど、集中してやりたいことをやりとげる力や、人と力を合わせるということが自然と身につけていることが分かる場面もありました。大人からすると何気ないことだったり、当たり前に見える出来事ですが、子どもたちはあそびの中で身体を使っていろいろなことを感じながら、経験を通して学んでいます。乳児期のあそびや生活を通しての経験は、幼児期以降、友だちと協力して、試したり工夫したりする学びに向かう姿につながっていくとともに、これからの教育に求められる非認知能力（やりたいことを見つけ最後まで粘りつよく前向きにやり遂げようとする生きる力）を高める基礎となっていきます。

非認知能力は、大人の指示や教えられて身につくものではなく、自らやってみようという楽しさの中で高まります。私たちは、これからも子どもたちの好奇心を刺激する楽しい環境を用意してまいりたいと思いますが、ただ瞬間的に楽しいだけではなく、もっとやってみようという、さらに遊びたくなる仕掛けも用意し、私たちも一緒に楽しみながら、子どもたちが考えたり試したりできる、豊かなあそびにつながっていききたいと思います。そして、この非認知能力を育むには、子どもにとって心のよりどころとなる安心できる大人の存在があることが大切です。しっかり語りかけ、お子さんの話や思いを聞いてあげ、「大好きだよ」「宝物だよ」「何があっても一番の味方だよ」と子どもの存在意義を認め、ちゃんと言葉にして伝えていきたいですね。

園長

水が少なくなるとなかなか水が入らなかったけど…、たらいを傾けたらお水が入ることに気づいたようです

ぐるぐるしたら色が変わるよ

何がみえるかな？

「何かな〜？」「さわりたい！」「どんな感じ？」いろいろなことを感じたり気づいたりしています

